

地域再生計画新旧対照表

変更前	変更後
<p>1～3 (略)</p> <p>4 《地域再生計画の背景》(略) 《地域再生に向けた取り組みの実績》(略) 《地域再生計画が目指すもの》(略) 《人財育成の目標》 (1) 付加価値の高い映像コンテンツ制作を目的とした人財育成(4D2Uクリエイター) 5年間で36人 (2) 最先端科学の知識の提供とその普及啓発に寄与する人財育成(宇宙映像コーディネーター) 5年間で72人(以下、略)</p> <p>■各年度ごとの人材育成の目標人数 (表中の項目)</p> <p>(1) 4D2Uクリエイター (2) 宇宙映像コーディネーター(以下、略)</p> <p>5-1 三鷹市は、科学技術と科学文化を活かしたまちづくり・ひとづくりを行うために、国立天文台との連携の中から、地域再生のための人財育成を行う。「付加価値の高い映像コンテンツ制作を目的とした人財育成(4D2Uクリエイター)」では、コンテンツ産業やイメージングサイエンスの分野で、科学データの可視化や立体映像化など、付加価値の高い映像コンテンツ制作を行える人財の育成を行う。また、「最先端科学の知識の提供とその普及啓発に寄与する人財育成(宇宙映像コーディネーター)」では、全国・全世界から要求のある、宇宙映像に関する様々な利用形態に対応し、実際に、契約や導入支援等を含めた営業や普及支援要員としての活動が可能な人財の育成を行う。</p>	<p>1～3 (略)</p> <p>4 《地域再生計画の背景》(略) 《地域再生に向けた取り組みの実績》(略) 《地域再生計画が目指すもの》(略) 《人財育成の目標》 (1) 付加価値の高い映像コンテンツ制作を目的とした人財育成(<u>科学映像クリエイター</u>) 5年間で36人 (2) 最先端科学の知識の提供とその普及啓発に寄与する人財育成(<u>科学プロデューサー</u>) 5年間で72人(以下、略)</p> <p>■各年度ごとの人材育成の目標人数 (表中の項目)</p> <p>(1) <u>科学映像クリエイター</u> (2) <u>科学プロデューサー</u>(以下、略)</p> <p>5-1 三鷹市は、科学技術と科学文化を活かしたまちづくり・ひとづくりを行うために、国立天文台との連携の中から、地域再生のための人財育成を行う。「付加価値の高い映像コンテンツ制作を目的とした人財育成(<u>科学映像クリエイター</u>)」では、コンテンツ産業やイメージングサイエンスの分野で、科学データの可視化や立体映像化など、付加価値の高い映像コンテンツ制作を行える人財の育成を行う。また、「最先端科学の知識の提供とその普及啓発に寄与する人財育成(<u>科学プロデューサー</u>)」では、全国・全世界から要求のある、宇宙映像に関する様々な利用形態に対応し、実際に、契約や導入支援等を含めた営業や普及支援要員としての活動が可能な人財の育成を行う。 <u>また、科学をテーマとしたまちぐるみのイベントや関連した講座などを開催し、科学文化と都市観光を基盤に、地域の活性化に取り組む。「世界天文年 2009 三鷹地域イベント」をきっかけとした「三鷹サイエンス・フェスティバル(仮称)」の開催のほか、国立天文台との連携した人財の養成や、小・</u></p>

<p>また、(以下、略)</p> <p>5-2 法第4章の特別の措置を適用して行う事業 該当無し</p> <p>5-3-1 (1) 支援措置の名称及び番号 B0801 科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」プログラム</p> <p>(2) 地域再生人材養成ユニットの名称 「宇宙映像利用による科学文化形成ユニット」</p> <p>(3) ユニットの設置場所 大学共同利用機関法人自然科学研究機構 国立天文台</p> <p>(4) 実施予定期間 平成19年7月から平成24年3月まで</p> <p>(5) 連携を行う自治体の名称 三鷹市</p> <p>(6) 事業内容 《国立天文台との連携》(以下、略) 《国立天文台における研究等のポテンシャル》(以下、略) 《支援措置による人財育成プログラム》 このような研究成果や実績等に鑑み、三鷹市は国立天文台と連携・協力し、「付加価値の高い映像コンテンツ制作を目的とした人財育成(4D2Uクリエイター)」と、「最先端科学の知識の提供とその普及・啓発に寄与する人財育成(宇宙映像コーディネータ)」の、2種類の人財を育成する。(以下、略) 《具体的な人財育成イメージ》 映像コンテンツ産業人財の高度化と新規事業創出支援を目指して、下記の人財を育成する。</p> <p>(1) 「付加価値の高い映像コンテンツ制作を</p>	<p><u>中学校生向けの科学に関するキャリア教育を通して、科学文化の普及と推進を図る。</u> <u>さらに(以下、略)</u></p> <p>5-2 法第5章の特別の措置を適用して行う事業 該当無し</p> <p>5-3-1 (1) 支援措置の名称及び番号 B0801 科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」プログラム</p> <p>① 地域再生人材養成ユニットの名称 「宇宙映像利用による科学文化形成ユニット」</p> <p>② ユニットの設置場所 大学共同利用機関法人自然科学研究機構 国立天文台</p> <p>③ 実施予定期間 平成19年7月から平成24年3月まで</p> <p>④ 連携を行う自治体の名称 三鷹市</p> <p>⑤ 事業内容 《国立天文台との連携》(以下、略) 《国立天文台における研究等のポテンシャル》(以下、略) 《支援措置による人財育成プログラム》 このような研究成果や実績等に鑑み、三鷹市は国立天文台と連携・協力し、「付加価値の高い映像コンテンツ制作を目的とした人財育成(科学映像クリエイター)」と、「最先端科学の知識の提供とその普及・啓発に寄与する人財育成(科学プロデューサー)」の、2種類の人財を育成する。(以下、略) 《具体的な人財育成イメージ》 映像コンテンツ産業人財の高度化と新規事業創出支援を目指して、下記の人財を育成する。</p> <p><u>ア) 「付加価値の高い映像コンテンツ制作を目的とした人財育成(科学映像クリエイター)」</u></p>
--	---

<p>目的とした人財育成（4D2Uクリエイター）」</p> <p>「4D2Uクリエイター」は、(以下、略)</p> <p>(2) 「最先端科学の知識の提供とその普及・啓発に寄与する人財育成（宇宙映像コーディネーター）」</p> <p>「宇宙映像コーディネーター」は、(以下、略)</p>	<p>「<u>科学映像クリエイター</u>」は、(以下、略)</p> <p>イ) 「最先端科学の知識の提供とその普及・啓発に寄与する人財育成（<u>科学プロデューサー</u>）」</p> <p>「<u>科学プロデューサー</u>」は、(以下、略)</p> <p>(2) <u>支援措置の名称及び番号</u></p> <p><u>B2001 官民パートナーシップ確立のための支援事業</u></p> <p>① <u>事業名称</u></p> <p><u>科学文化と都市観光を基盤とした地域活性化プロジェクト</u></p> <p>② <u>事業実施主体名</u></p> <p><u>NPO法人三鷹ネットワーク大学推進機構</u></p> <p>③ <u>実施予定期間</u></p> <p><u>認定の日から平成21年2月まで</u></p> <p>④ <u>地方公共団体名</u></p> <p><u>三鷹市</u></p> <p>⑤ <u>事業内容</u></p> <p><u>《「世界天文年2009三鷹地域イベント」等の開催》</u></p> <p><u>科学をテーマにしたまちぐるみのイベントとして、「世界天文年2009三鷹地域イベント」と連動した講座や催しを開催するとともに、都市観光の面からも、新たな地域再生の枠組みを創出する。</u></p> <p><u>ア) 初心者のための望遠鏡講座（11月～12月）</u></p> <p><u>2009年の世界天文年が、ガリレオ・ガリレイが望遠鏡で月を観測してから400年目であることを記念していることから、「世界天文年2009プレイベント」として、天体望遠鏡を使ったことのない市民を対象に初心者向けの望遠鏡キットを使った望遠鏡のしくみを知る講座や、天体望遠鏡の使い方を学ぶ講座を開催する。</u></p> <p><u>講師は国立天文台の専門家に依頼するとともに、望遠鏡操作に関するアシスタントには、三鷹ネットワーク大学が既に養成を始めている「星のソムリエみたか」の修了生があたる。</u></p> <p>イ) 天文学者への100の質問～市民が創</p>
---	--

る天文講座～（1月～2月）

世界天文年2009三鷹地域イベントの皮切りとして、市民の質問によって構成する連続講座を開催する。研究機関や大学が主催する講演会等は科学者からの一方的な知識の提供に留まる傾向があることから、まず始めに市民から天文に関する質問を募集することで、市民参加による講座運営を実現する。

寄せられた質問から講座を構成する作業等については、科学技術振興調整費を受けて国立天文台が養成している「科学プロデューサ養成コース」受講生及び修了生があたる。

《科学文化に関わる市民人財の養成》

科学文化の普及と推進に携わる市民のボランティア人財を、国立天文台との連携の中から育成し、少子高齢化が進む地域社会で、新たな活躍の場を求める市民ニーズに対応する事業として実施する。

ア)「三鷹通」養成講座～大沢の里編～（12月～1月）

特定非営利活動法人みたか都市観光協会との協働で開催している「三鷹通」養成講座について、みたか都市観光協会、みたか観光ガイド協会等の地域団体や、国立天文台と連携し、国立天文台を含む「大沢の里」一帯にスポットをあてて実施する。豊かな自然環境と、遺跡、水田や水車小屋などの農村文化、天文台内に残る文化遺産としての建築物、最先端の科学に関する知識など、多様な要素を含む大沢地域全般に関する講座を開催する。本講座終了後には希望者に対して、みたか観光ガイド協会に「大沢の里ガイド」として登録し活動できるようなしくみづくりを行う。

イ) 4D2Uナビゲータ養成講座

国立天文台が独自に開発し、ウェブ上で無償で配信している「四次元デジタル宇宙シアター（4D2U）」のソフトウェア「MITAKA」の使い方を学び、市民が自由に疑似的な宇宙空間をパソコン上で楽しむ方法をナビゲートする人財の養成を行う。

	<p>《<u>小・中学校での科学教育・キャリア教育支援</u>》</p> <p><u>科学文化の普及について、学校教育現場への波及効果として、理科教育に携わる小・中学校教員への研修や、地域の特色ある産業であるアニメーション・コンテンツ産業を題材にした小・中学生向けのキャリア教育を実施する。</u></p> <p>ア) <u>小・中学校理科教諭対象研修会「地球がもしも100cmの球だったら～宇宙から見た地球環境～」(12月～2月)</u></p> <p><u>小・中学校の理科教諭を対象として、地球・月・太陽系の大きさを身近なスケールに置き換えて捉えなおす中から、地球環境を守ることの大切さを学び、天文と環境を結びつけた授業が展開できるようになるための研修。本研修は、教諭対象の研修であるとともに、2009年の世界天文年にあわせて、実際の授業を行う際に使える小道具等のキットの作成・配布や、授業を支援するアシスタントの派遣などを付加した、実践的な内容とする。教員研修を実施した後に、希望する学校を対象として授業実践のサポートも行い、小・中学生の理科離れを防ぐための授業実施をめざす。</u></p> <p><u>研修・授業用キットの作成や授業支援のコーディネートについては科学技術振興調整費を受けて国立天文台が養成している「科学プロデューサ養成コース」受講生及び修了生が、また、実際の授業支援については「星のソムリエみたか」の修了生も加わってあたる。</u></p> <p>イ) <u>小・中学生向けのキャリア教育(11月～2月)</u></p> <p><u>小・中学校の総合的学習の時間の中で、希望する学校に対して、コンテンツ産業等を中心とした外部講師を派遣し、幅広いキャリア教育を支援する。</u></p> <p><u>三鷹ネットワーク大学では、平成17年度から19年度までの3年間、経済産業省の「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジ</u></p>
--	---

<p>5-3-2 基本方針に掲げられた支援措置によらない独自の取り組み</p> <p>NPO法人三鷹ネットワーク大学推進機構に参加する民学産公の知的資源を活用して、多様な分野にわたるまちづくりの人財育成を展開する。具体的には、教育・学習コンテンツの開発による高度な学習機会の提供、ビジネス・インキュベート支援や民学産公協働研究事業等を通じた新事業の創出支援による地域産業の活性化と行政運営の効率化推進、若年層からシニアまで、各層に対応したキャリア・デザイン支援事業やeラーニングの活用などによる多様な学習機会の提供、科学文化のまちづくりを支援するボランティアの人財育成などを行う。なお、特に学校教育に対しても、これら知的資源を活用して、教職員研修、授業支援（科学・理科教育、キャリア教育等）等を推進する。</p> <p>(1) 小・中学校での科学教育・キャリア教育支援</p> <p>理科教育に携わる小・中・高校の教員などが、国立天文台が保有する様々な科学映像コンテンツや天体望遠鏡を使えるようになるための研修や授業支援等を行うことで、子どもの理科・科学離れを防止し、将来を担う人財の更なる育成を継続的に行う基盤を整備する。</p> <p>また、地域の特色ある産業であるアニメーション・コンテンツ産業を題材にした小・中学生向けのキャリア教育を継続</p>	<p><u>エクト」を受託して「クリエイティブ・キャリア・プログラム」を市内の小・中学校を対象に実施してきた。平成20年度からは、3年間の経験を活かし、コンテンツ産業を中心としつつ、より広範なキャリア教育に関する取組をめざし、外部講師の紹介や派遣を行う。</u></p> <p>5-3-2 基本方針に掲げられた支援措置によらない独自の取り組み</p> <p>NPO法人三鷹ネットワーク大学推進機構に参加する民学産公の知的資源を活用して、多様な分野にわたるまちづくりの人財育成を展開する。具体的には、教育・学習コンテンツの開発による高度な学習機会の提供、ビジネス・インキュベート支援や民学産公協働研究事業等を通じた新事業の創出支援による地域産業の活性化と行政運営の効率化推進、若年層からシニアまで、各層に対応したキャリア・デザイン支援事業やeラーニングの活用などによる多様な学習機会の提供、科学文化のまちづくりを支援するボランティアの人財育成などを行う。なお、特に学校教育に対しても、これら知的資源を活用して、教職員研修、授業支援（科学・理科教育、キャリア教育等）等を推進する。</p> <p>(1) 小・中学校での科学教育・キャリア教育支援</p> <p>理科教育に携わる小・中・高校の教員などが、国立天文台が保有する様々な科学映像コンテンツや天体望遠鏡を使えるようになるための研修や授業支援等を行うことで、子どもの理科・科学離れを防止し、将来を担う人財の更なる育成を継続的に行う基盤を整備する。</p> <p>また、地域の特色ある産業であるアニメーション・コンテンツ産業を題材にした小・中学生向けのキャリア教育を継続して実施する。</p>
---	--

して実施する。

(2) 科学文化創出への展開

国立天文台との連携の中から、「天文台ガイド」、「4D2U ナビゲータ」、「星のソムリエ」、「科学の語り部」など「天文コンシェルジュ」を養成するプログラムを開発・展開し、少子高齢化が進む地域社会で、新たな活躍の場を求める市民ニーズに対応する事業も実施する。

この「天文コンシェルジュ養成プログラム」は、地域で活動する子育て支援関連NPO、団塊の世代予備軍を含むシニアNPOなどのほか、科学分野の自主活動市民グループの人々などを主な対象と想定しており、地域で実施されるボランティアな諸事業への支援スタッフの養成や、人財ネットワーク作りを通じた都市型少子高齢化問題の解決への一助となることが期待される。

また、科学をテーマにしたまちぐるみのイベント開催や、国際的な科学・立体映像祭の開催などを目指し、養成した人財に活躍の場を提供するとともに、都市観光の面からも、新たな地域再生の枠組みを創出する。

(3) 科学技術と科学文化によるまちづくりの推進

三鷹市は本計画の推進により、「科学を使った地域再生」を目指している。これは、「技術移転による地域産業の活性化」を推進するという側面とともに、「文化としての科学を媒介にした社会的な貢献による地域の活性化」という側面を併せ持ち、教育・研究機関が有する知の集積を地域社会に活かす、新たなまちづくりの手法だと考える。「科学技術の活用」と「科学文化の創出」の両者を不可分なものとして扱い、さらには天文学以外の分野にも発展させることで、地域社会の再生と発展に資する「科学振興による地域活性化活動」の展開を目指すものである。

(1) 科学文化創出への展開

国立天文台との連携の中から、「天文台ガイド」、~~「4D2Uナビゲータ」~~「星のソムリエ」、「科学の語り部」など「天文コンシェルジュ」を養成するプログラムを開発・展開し、少子高齢化が進む地域社会で、新たな活躍の場を求める市民ニーズに対応する事業も実施する。

この「天文コンシェルジュ養成プログラム」は、地域で活動する子育て支援関連NPO、団塊の世代予備軍を含むシニアNPOなどのほか、科学分野の自主活動市民グループの人々などを主な対象と想定しており、地域で実施されるボランティアな諸事業への支援スタッフの養成や、人財ネットワーク作りを通じた都市型少子高齢化問題の解決への一助となることが期待される。

また、科学をテーマにしたまちぐるみのイベント開催や、国際的な科学・立体映像祭の開催などを目指し、養成した人財に活躍の場を提供するとともに、都市観光の面からも、新たな地域再生の枠組みを創出する。

(2) 科学技術と科学文化によるまちづくりの推進

三鷹市は本計画の推進により、「科学を使った地域再生」を目指している。これは、「技術移転による地域産業の活性化」を推進するという側面とともに、「文化としての科学を媒介にした社会的な貢献による地域の活性化」という側面を併せ持ち、教育・研究機関が有する知の集積を地域社会に活かす、新たなまちづくりの手法だと考える。「科学技術の活用」と「科学文化の創出」の両者を不可分なものとして扱い、さらには天文学以外の分野にも発展させることで、地域社会の再生と発展に資する「科学振興による地域活性化活動」の展開を目指すものである。

6 ~ 8 略	6 ~ 8 略
---------	---------